



NEWS LETTER

Ver. 2012. 09



TRAM SYSTEM

今月のコンテンツ



◎ 徹底比較！iPhone VS Android

- ・トータルでiPhone 上級者はAndroid？

◎ ～ウルトラブックの進む道～

- ・ウルトラブックのウリと弱点
- ・今なぜウルトラブックなのか？

プラチナ電波



SoftBank

◎ プラチナバンド 繋がりがよくなるとるか？

- ・「以前の回線のほうが繋がってたんですが・・・」

◎ 通信雑学 第一弾

- ・世界初の海底ケーブルは1851年



朝夕めっきり涼しくなってきましたが、気温の変化で体調を崩しやすい季節です、お体には十分お気を付け下さい。
私も先日鼻水が止まらず大変でした・・・
さて、今月は皆様よりよくお問合せ頂く内容をピックアップしてみました。
「最近騒がれてるけど、ウルトラブックってどうなのよ。」
「ぶっちゃけiPhoneとAndroidってどっちがいいの？」
「プラチナバンド・・・よく回線切れるんだけど・・・。」
いずれも身近な話ですよ、ご説明させて頂きましょう！！

◎ 徹底比較!! iPhone VS Android どちらが使いやすい?

・トータルでは iPhone 上級者はAndroid?

iPhone 23%

世界的なシェア率



Android 59%

ではまず、主観ではありますが結論から行きましょう。
 初スマートフォンや、PCが苦手な人は **iPhone** 一択です。
 直感的な操作性やサクサク感は他に追従を許しません。
 価格、バッテリー持続時間、サポートといずれもスマホ全体で見ても
 トップレベルです。これでダメならスマホを持つこと自体を諦めた方が
 良いかもしれません・・・。
 片や **Android** はかなり上級者向きといった感じです。
 スマホでやれることの自由度が圧倒的に高い代わりに、全て自分で
 調べてアプリを入れたり設定をカスタマイズする必要があります。
 初スマホならあまりオススメできません。

iPhone の特徴

- ◎直感的な操作性と、サクサク感が抜群。
これはiPhone4より後発のAndroid機種でも及びません。
- ◎安い Androidより安い、ただそれだけのこと・・・。
- ◎バッテリー消費
スマホ全機種から見てもトップクラスの持続時間ですね。
- ◎OSのバージョンアップ保障 初期iPhoneでも最新にできる。
サポートの面でもiPhoneのほうが親切です。

Android の特徴

- ◎制約が少なく自由度が高い
アプリを立ち上げなくても一部情報がホームにて見れるなど
カスタマイズ次第で使い勝手はかなり高くなります。
- ◎カーナビがすごい
無料アプリでかなり完成度が高く、iPhoneより使いやすい。
- ◎ツイッター、フェイスブックとの連携
OSレベルで連携が取れていてiPhoneより使いやすい。
- ◎Android搭載機種が豊富

◎ ～ウルトラブックの進む道～

・ウルトラブックのウリと弱点

ウルトラブックとは、インテルが提唱するノートパソコンの新しいカテゴリーのことで、端的に表現すると「薄型軽量の高性能なスタイリッシュノートパソコン」となります。

以下、特筆すべき技術をいくつかご紹介致します。

◎ ふたを開けたらすぐに使える

「ラピッド・スタート・テクノロジー」と呼ばれる技術で、7秒未満の復帰を実現する。

◎ ふたを閉じた「スリープ」状態の時でもインターネット接続

新着メールやツイッターなどの最新投稿を自動取得できるため、ふたを開けたらすぐにそれらを閲覧できる。

◎ データの読み書きをより高速でできる「SSD」を採用。

高速回転を可能にするが、高価で保存領域が少なくなるというデメリットも。

これだけ聞いていればメチャクチャいいものですが、薄型で高性能を可能にするために払った代償もまた多く、購入前に抑えておきたいポイントは下記のとおりです。

①ポート類が少ない

USBポートが2つしかなかったり、LANやVGAポート、メモリーカードスロットがない機種も存在します。

②発熱しやすい（機種にもより、改善されているものもあります）

薄型のため、部品が密集し、大きなファンが搭載出来ないため熱がこもりやすい。

③光学ドライブを搭載しているPCがほとんどない。

④メモリやディスク、バッテリーなどのパーツを

自分で交換できない機種が多い。

特に消耗品であるバッテリーを自分で交換出来ないのは痛いですね。




NEC LaVie わすか875グラム



SONY VAIO Duo 11
Windows8搭載 タッチパネルディスプレイ

◎ 今なぜウルトラブックなのか？

今なぜインテルが「**ウルトラブック構想**」を打ち上げたのでしょうか。この背景には、スマートフォンやタブレット端末の普及が関係しています。スマートフォンやタブレット端末といった最新デバイスはWindows OSを搭載したパソコンではないが、現在、いつでもどこでも利用できるパーソナルコンピューターとしての地位を築きつつあります。コンピューティングデバイスとして、今ひのき舞台にいるのは、もはやパソコンではないのです。しかも注目したいのは、これらのデバイスが採用しているCPUはインテルのプロセッサではなく、ARMベースであるということです。半導体のガリバーとして君臨してきたインテルにとっては、これをただ指をくわえて見ているわけにはいかないのです。タブレット端末がノートパソコン市場を本格的に浸食する前に、手を打っておく必要があります。そこで「**ウルトラブック**」という、ノートパソコンとタブレット端末の中間に位置するジャンルを素早く打立て、タブレット端末にノートパソコン市場が浸食されないようにしておきたいというのが本音ではないでしょうか。



先月号でも Windows8 で少し触れましたが、従来からのパソコンとタブレット端末などの新型デバイスとの境界はこの先ますます希薄化していくと見られています。**ウルトラブック**が登場してきた背景には、このようなコンピューター業界に訪れた大きな変革のうねりが関係しているのです。いずれにせよ、**ウルトラブック**がこの先どのような変化を私たちにもたらしてくれるのか、私を含め、消費者としても楽しみにしたいところです。

◎ プラチナバンド 繋がりがよくなってるか？

「前の回線の方が繋がってたんですが・・・」

SMOPが出演するCMでド派手に登場したSoftBankのプラチナバンド。これまでの2.1GHz帯に比べて室内にも電波が入りやすく、障害物などを回り込んでビル内や繁華街でも通話・データ通信がしやすくなる・・・はずでしたが、現状ではむしろ繋がりにくくなったとの声が多いようです。

電話が掛かってくると窓際や建物を出て通話しなければならないケースもあります。「昔の携帯ってこんなんだったね～・・・。」とはトラムシステム代表の生の声です。私のiPhoneは2.1GHz帯を掴んでるようで音声品質は問題ないのですが・・・

かたや、**docomo・KDDI**で同じ特性を持つ800MHz帯のサービスは問題なく通話品質も良好です。この違いは「プラチナバンド対応の基地局が少ない」という単純な理由からきています。800MHz帯基地局の人口カバー率を見ていくと、**docomo・KDDI**が99%超なのに対し、SoftBankの900MHz帯の人口カバー率わずか数%、「そら繋がりにくいわ」となるわけです。



無論、このままで済ませる孫社長ではありません。

1兆5500億円という国家予算並みの資金を投じて基地局の対応を急ぐと、急ピッチで建設は進んでいるようです。

が、この計画が完全実施されたとして人口カバー率が90%を超えるのが2年後と見られており、**docomo・KDDI**並のカバー率になるのはさらに先だと言います。う～ん・・・大丈夫か！ SoftBank !!



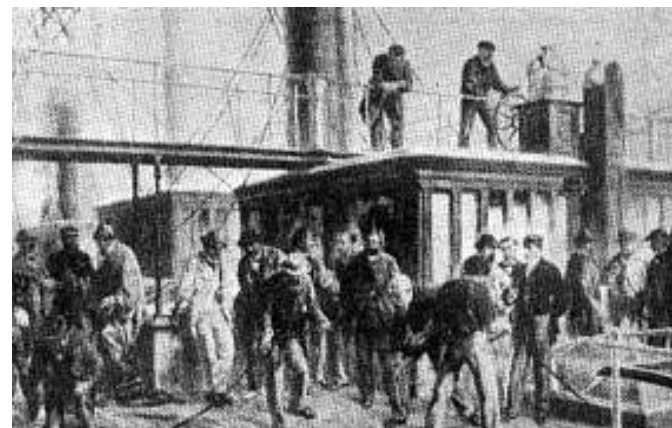
どこでもつながる？
ソフトバンクへ

◎ 通信雑学 第一弾

「世界初の海底ケーブルは1851年」

今では当たり前のように海外のWebサイトが見れたり、海外通話ができます。その根底を支えているのが海底ケーブルなわけですね。その歴史は古く、世界で初めて海底ケーブルが引かれたのが1851年、イギリス・フランス間のドーバー海峡での成功が始まりでした。日本で言えば、明治維新の幕開け 黒船来航の2年前です。

19世紀当時、英国の国内電信の発達には目覚ましいものがありました。さらに島国である英国国内には、海を越えて本土と離島間はもちろん、進んでヨーロッパ大陸と通信を行おうとする気運がありました。



当時の海底ケーブル既設風景



シャルル・ルイ＝ナポレオン・ボナパルト

英人ブレット兄弟は、1850年に同海峡にGP絶縁海底電線の敷設に成功。これは銅の導線をゴムで絶縁しただけで、なんら保護被覆のないものでした。敷設後の第一報はフランス植民地帝国の繁栄の礎を築いたとされる、かのナポレオン3世にあてた祝電で、これには成功したものの翌日には不通に。沿岸の漁夫が珍しい海草だと切り取って持ち帰ったと言われてます。

通信時間は短かったものの海底通信の可能性が立証されたのを糧に、翌年1851年、4芯入GP海底ケーブルを用いてドーバー海峡にこれを敷設ケーブルに「海草ではありません。」と書いたかどうかは定かではありませんが、みごと成功を収めました。

これが、世界で最初の世界初の海底ケーブルとなるわけです。



トラムシステム株式会社

〒465-0063

愛知県名古屋市名東区新宿2丁目55番地

TEL:052-701-2634

FAX:052-701-2637

Mail : info@tramsystem.jp